



『日本庭園を味わう』

会場：ホテル北野プラザ六甲荘

日時：2018年4月21日（土）10：30～12：00

講師：日本庭園史研究家 中田勝康 <http://muso.to/>

主催：一般社団法人 桜蔭会（お茶の水女子大学同窓会）支部公益事業助成金事業

『日本庭園を味わう』

1 日本庭園の特徴

1.1 日本庭園は世界的に見ても珍しいタイプの表現方法である

日本庭園の素材は自然物であり、しかもその出来上がった造形も自然を写している。しかし、単に自然の造景を写しただけでは箱庭的な自然物のコピーであり、芸術とは言い難い。そこで、日本庭園の造景は自然の中のポイントとなる要素を抽象化するのである。自然を写しながらも抽象化された自然だ。このような創作分野は日本特有の自然に対する畏敬の念に由来していると思われるが、世界的な基準に照らして芸術と言えるためには、高度に抽象化される必要がある と考える。

1.2 日本庭園が芸術であるためには【中田勝康著『重森三玲 庭園の全貌』より抜粋】

庭園芸術の評価が難しい理由の一つは、素材が自然にある石、草木、砂、水であり、しかも、それらを使って造形された作品も、やはり何らかの意味で自然の風景であると言う点にある。多少下手な造形であっても、山や川があり、自然らしく作られていれば、ある程度の満足を得ることが出来るだろう。いわゆる自然の縮小コピーである。しかし、自然らしさを楽しむのであれば、自然そのものを楽しめば良いのであり、自然そのものに勝るものはない。庭園が芸術であるためには、自然の素材を使いながらも自然を超えた形を創造すること、言い換えるなら、あるがままの自然ではなく、人が感じた自然、単なる自然を抜け出した、自然を超えたものを創造することが必要である。

庭園と類似の芸術として、「いけばな」を考えればもっと明瞭である。素材は草木であって、神の作った自然そのものだ。この自然の素材で自然を超えた形を創作することは、一見簡単なようで非常に難しい。もちろん、無造作に花を生けても、それなりに美しい情景を得ることができる。しかし「いけばな」が単なる自然ではなくて、芸術であると考えられているとすれば、そこでは、花が作者によって自然から切り離され、改めて作者が作り上げた独自の自然が再構築されていなければならない。**言い換えるならば、「自然を一度解体して、作者による新しい造景を再構築」**することである。造園や「いけばな」のように造形物が自然に近い分野の創作活動は、素材は自然であっても、造形は自然を超えたものにする必要がある。出来上がった造形物に感動を覚える理由は、生の自然の美しさにあるのではなく、その造形物に創造性があるからである。

なお、日本庭園に求める理想像を「癒される」「落ちつく」「しっとりとする」を求める場合は自然の野山に勝るものはない。ここでは日本庭園に芸術的な造形を求める との考えからの区分である。

2 日本庭園の全体像の把握

日本庭園を論ずる場合、個々の庭園を解釈するのではなく、まずその発生から考察し、外来思想の影響を受けながら多様化したと考える。これらの流れを以下のような系譜図で俯瞰的に把握すべきであろうと考える。

2.1 日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜区分

2.1.1 系譜区分の基準 日本庭園を網羅的に示せば、ほぼ以下の5系列の系譜になる。

①神仙蓬莱庭園の系譜：亀島・鶴島・洞窟の造形で、飛鳥時代から現代まで続く縁起の良い庭。

②広大な池泉庭園の系譜：広大な敷地の池泉庭園であり、いわば覇者の庭とも云える庭を5区分した。

【①極楽浄土の庭・②寝殿造りの庭・③宮廷の庭・④大名の庭・⑤自然主義の庭】

③抽象枯山水庭園の系譜：平庭式抽象枯山水庭園で白砂に石を散在させる龍安寺式の庭園を3区分した。

【①禅宗の舶来～龍安寺に至る迄・②龍安寺以降～江戸時代・③重森三玲】

④石組み構成美庭園の系譜：自然石の組合せにより雄渾な空間構成を形成する庭を3区分した。

【①戦国武将の庭・②安土桃山時代の庭・③石組み構成美の庭】

⑤幾何学模様・グラフィックな造形庭園の系譜：小堀遠州に端を発したこの種の庭園は、重森三玲により発展した。しかし日本庭園としての歴史は浅いが、人類の普遍的な価値に適合と考え申請対象とした。

日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜と具体例の写真を以降に示す。

2.1.2 日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜図

時代	①神仙蓬莱系譜		②池泉庭の系譜		③抽象枯山水系譜		④石組構成美系譜		⑤幾何学模様系譜		外来思想	
日本古来の石造造形												
縄文	盤座		水辺祭祀		古墳							
弥生	松尾大社		城之越遺跡		巢山古墳							
古墳												
飛鳥	飛鳥京跡										神仙蓬莱	
奈良・平安・鎌倉時代	① 神仙蓬莱	② 広大な池泉庭園の系譜	東院								極楽浄土	
			毛越寺									
			穢土・西方寺 (現西芳寺)		蘭溪道隆						禅宗思想	
			龜山離宮 (現天龍寺)		龍門寺							
			旧北山第 (現金閣寺)		建長寺							
					夢窓疎石							
					永保寺							
					瑞泉寺							
					西芳寺							
					天龍寺							
室町時代	菜思の系譜	③ 抽象枯山水庭園の系譜	金閣寺		④ 石組み構成美							
			保国寺									
			雪舟等楊									
			常栄寺		常栄寺						水墨画	
			普賢寺						萬福寺			
			子建西堂									
桃山	系譜	② 広大な池泉庭	小堀遠州									
			二条城		仙洞御所		の上系譜		上田宗箇		⑤ 幾何学模様	
			桂離宮		桂家		徳島城					
			小石川後樂園		東海庵		和歌山城					
			六義園		福田寺		名古屋・広島城					
					久留島家		青岸寺					
							阿波国分寺					
							粉河寺					
江戸	園の系	庭	小川治兵衛								ヨーロッパ 自然主義	
			重森三玲								ヨーロッパ 抽象主義	
			村上家		東福寺		松尾大社		東福寺			
			福智院		岸和田城		小河家		岸和田城			
					前垣家		横山家		漢陽寺			
明治～昭和			興禅寺		瑞応院		福智院					
			龍源院(鍋島)		瑞峯院		清原家					

2.1.3 各系譜の具体例の庭園写真 5つの系譜ごとに具体的な庭園例を以下に示す。

① **神仙蓬莱庭園の系譜**：道教の影響下に形成された神話で、不老不死、亀島、鶴島である。



飛鳥京跡苑池 (明日香)



旧秀燐寺 (滋賀県高島市)



左側より亀島・蓬莱山・鶴島：金地院 (京都市)

② **広大な池泉庭園の系譜**：広大な敷地の池泉庭園であるが、各時代の風俗や宗教の影響を受け時代ごとに変化する。その原点は奈良時代の①極楽浄土の庭の庭に始まり、平安時代になると②寝殿造りの庭になり、江戸時代には③宮廷の庭や④大名の庭になり、大正時代には⑤自然主義風景の庭に発展してゆく。



①極楽浄土の庭：東院



①極楽浄土の庭：浄瑠璃寺



④大名の庭園：栗林公園



⑤自然主義風景の庭：平安神宮

③ **抽象枯山水庭園の系譜**：平庭式抽象枯山水庭園で白砂に石を散在させる龍安寺様式の庭園を3区分した。

①鎌倉時代の禅宗の舶来～龍安寺に至る迄・②龍安寺以降～江戸時代・③重森三玲 (現代)



①禅宗の舶来：龍門寺



①禅宗の渡来：常栄寺



①禅宗の舶来：龍安寺



②龍安寺以降：桂家

④ **石組み構成美庭園の系譜**：自然石の組合せにより雄渾な空間構成を形成する庭を3区分した。

①戦国武将の剛健な庭・②安土桃山時代の絢爛豪華な庭・③石組み構成美の庭



①戦国武将の庭：朝倉遺跡



①戦国武将の庭：常栄寺



③石組み構成美の庭：国分寺

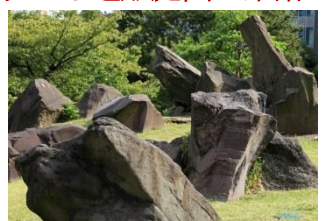


③石組み構成美の庭：粉河寺

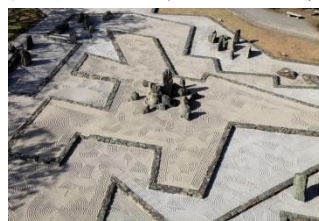
⑤ **幾何学模様・グラフィックな造形庭園の系譜**：小堀遠州に端を発したこの庭は重森三玲によって充実した。



小堀遠州：金地院



芝離宮の立体造形



重森三玲：岸和田城 (S28)



重森三玲：漢陽寺 (S48)

2.2 抽象化度と造形の完成度に関する概念

日本庭園は自然を取り込んだ具象的庭園から、次第に物語の視覚化や自然の表象化、即ち象徴化の方向に進んだ。さらに禅思想の影響もあってか抽象化された石組みは「空間構成美の庭」を完成させた。

ここでは「**日本庭園が芸術であるためには、世界基準にかなう造形性と抽象性**」の視点で考える。

2.2.1 抽象化度による庭園の区分の定義

① 抽象的造形

- ①完全な抽象造形(自然の風景と関係ない龍安寺の世界)
- ②人工的造形(重森の造形)(自然の風景を高度に抽象し、自然には無い直線や曲線の形や色の造形)

② 象徴的造形(物語や自然の風景をデフォルメした、やや抽象化された造形)

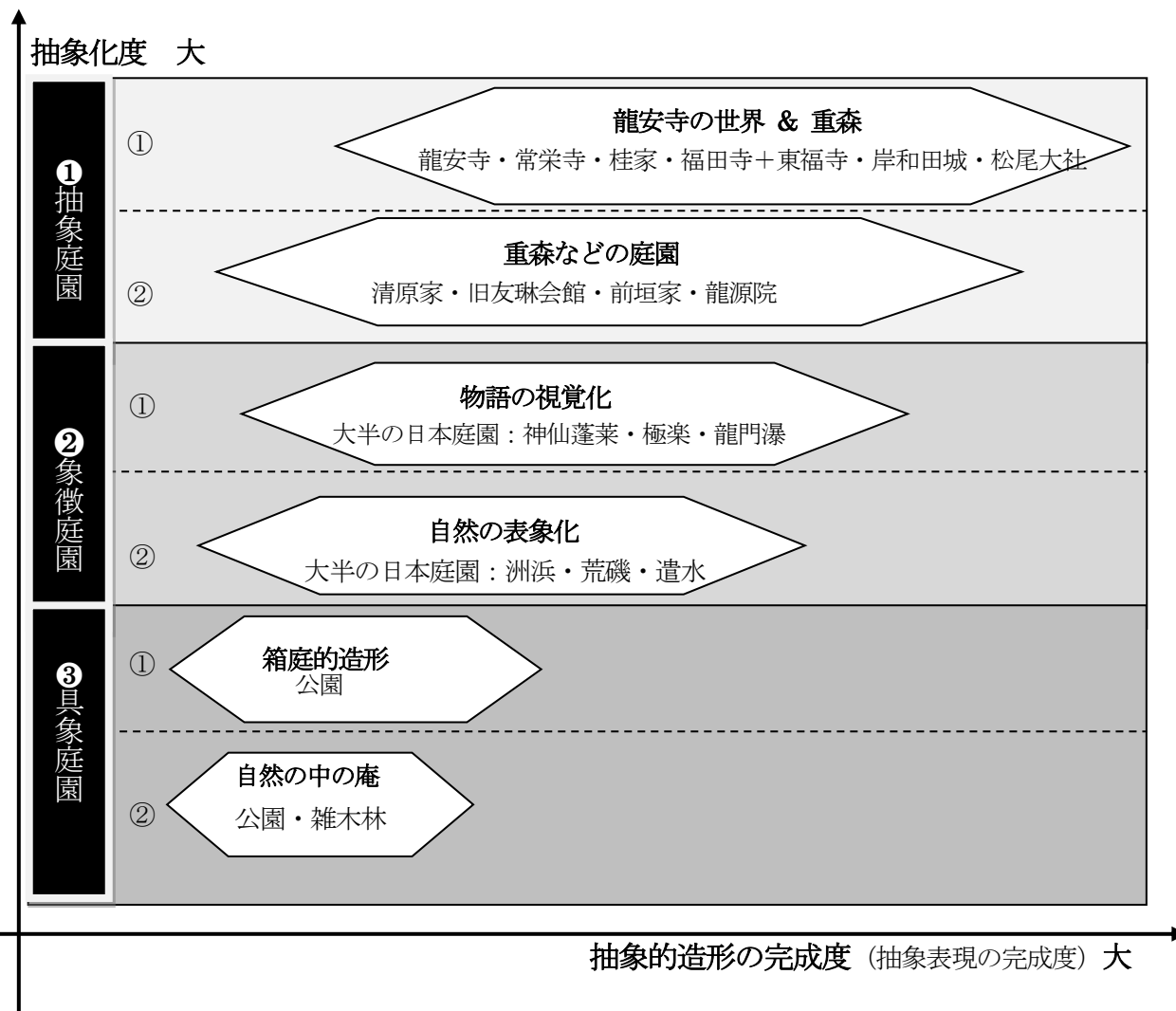
- ①**神話・仏典の物語を視覚化した造形**(例えば蓬莱山・須弥山・極楽など)
- ②**自然風景の表象化(デフォルメ)した造形**(例えば荒磯・洲浜・遣水など)

③ 具象的造形

- ①箱庭的に自然を模倣した造形(自然の要素を取捨選択せずに、あれこれ取り込んだ造形)
- ②自然の中にある庵・東屋の風景(自然そのものを眺める田園風景)

2.2.2 抽象化度と造形の完成度に関する概念図

日本庭園は自然を取り込んだ具象的庭園から、次第に物語の視覚化や自然の表象化、即ち象徴化の方向に進んだ。さらに禅思想の影響もあってか抽象化された石組みは「空間構成美の庭」を完成させた。ただし、抽象化度の高い庭園は抽象思想を造形化することが困難なため、多くの日本庭園は下図に示したような象徴庭園の部類に属している。なお日本庭園は不可逆的に抽象化を目指したのではなく、試行錯誤の末、龍安寺の抽象庭園。



2.2.3 庭園における抽象度の写真例

① **抽象的造形**: 具象的・象徴的な造形ではなく、自然界や神話などを想起させない、抽象度の高い造形を例示す。

①・①完全な抽象造形の庭: 具体的な自然物や象徴ではない、全くの人工的な造形空間構成の優れた庭

A 古典庭園の例



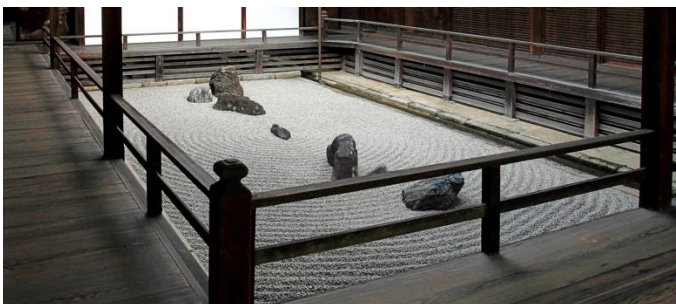
龍安寺: 抽象化された石組



桂家(防府市): 奇想天外な創作造形



朝倉館跡(福井市): 芸術的護岸



東海庵(京都市): 抽象化された石組

B 重森三玲の世界



東福寺: ストイックな石組



岸和田城: 抽象的屈曲線



興禅寺: 抽象造形と自然界との好対照



松尾大社: 自由な石組

①・②人工的造形: 自然を高度に抽象し、自然には存在しない直線や曲線の形や色の造形の庭を作った。



清原家(芦屋): 抽象絵画(一部)



旧友琳会館



芦田家(尼崎市): 高度に抽象された洲浜

② 象徴的造形

②・①神話・仏典・禅語録などの物語を視覚化した造形（蓬莱山・須弥山・極楽・九山八海など）

A 古典庭園：中国では既に秦・漢の時代から神仙蓬莱の庭を再現した。日本では鎌倉時代以降は立体造形が多い。



龍門瀑(西芳寺)：修行の道場と象徴庭園の並列



龍門瀑(天龍寺)：山畔を活かした立体造形



須弥山を象徴：約 1250 年前の奈良時代の石組



鶴・亀・蓬莱山：小堀遠州による斬新な幾何学造形

B 重森三玲：重森は物語をテーマに採用しているが、説話など自由なテーマを抽象的、動的、重厚な造形。



鶴亀蓬莱・石梁飛瀑(漢陽寺・周南市)：ダイナミックな石組



村上家(西脇市)：蓬莱山と龍門瀑を象徴した造形



久保家(伊丹市)：動的な須弥山



石像寺(丹波市)：四神相応の立体造形



村上家(島根県)：抽象化された象徴庭園

②・②（古典+重森）自然の風景を表象化した造形（自然をデフォルメした造形で洲浜・荒磯・遣水・曲水など）

鎌倉時代以前の庭園の造形は自然の風景をデフォルメする試み大半である。例えば洲浜・遣水・荒磯である。



毛越寺(平泉・平安)：自然を表象した洲浜



光明院(S14)：重森は毛越寺を倣う



斧原家(西宮市・S15)：更にデザイン化した洲浜

③具象的庭園：この種の庭は公園とか河川敷にあるが、芸術性を論じることが出来ないなので、例示しない。

3 重森三玲による「永遠のモダン」の創作(日本庭園は各時代脱皮し続けてきたが、重森の革新的要素を記す)

3.1.①古典池泉庭園の発展:池泉庭園の護岸は栗石→土波→部分的石組み→石組尽くし と変化



東院:栗石の州浜のみ



天龍寺:1部護岸石組



保国寺:護岸は石で覆れる



徳島城:豪華な護岸尽し



二条城:豪華な護岸尽し

3.1.②古典枯山水庭園からの影響(金地院・聚光院、酬恩庵は枯山水庭園のため、護岸が不必要になった)



金地院(小堀):枯山水では神仙島に護岸は不必要。鶴島の石組白眉



酬恩庵:鶴亀兼用石組みに護岸無し

3.1.③重森の護岸無き神仙島:重森は枯山水の場合、護岸機能の石組みから解放され、芸術的造形を志向した



東福寺:神仙島護岸無し



光明院:護岸のない



小倉家:三神仙島



芦田家:洗出しの造形



旧重森家:護岸なき島

3.2 ヨーロッパ抽象主義からの影響

重森(27歳)は大正12年発刊の『文化大学院 現代文化思潮講義録』第一回 第十三号の中に以下のように記した。

アンリー・マチスを以下のように述べている。

「形の単純化、それが後期印象派の一面の芸術的心理であるとすれば、この単純化が最も徹底したのが彼マチスの芸術であらう。……それが為に表現の単純化は形に於いてのみでなく、又色彩に於いてもそうであった。……対象を極度に自己のものとして表現したからである。」

カンデンスキーを以下のように評価している。

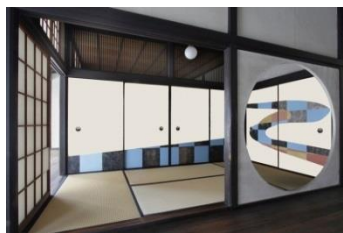
「最高の芸術は物象形而より離脱し、或る線條と色彩とを用いて自己の感情象徴したものでなくてはならない。そして之等の芸術美は、精神の象徴的表現そのものに他ならないのです」



村上家(S34):マティス状の切り絵



同左:杉戸へ造形



桑田家(S34):流水模様



小河家(S35):流水模様

重森のモダン庭園:マチス・カンデンスキーの抽象主義に傾倒し、**直線・屈曲線・曲線・曲面&色彩**に影響した



清原家:地上の絵画



友琳会館:線と面



岸和田城:屈曲線



漢陽寺:直線と色



石像寺:四神相応



天籟庵:一木一草無き露地